筑摩書房「古典探究（漢文編）」（古探 ７16）年間指導計画（シラバス）案

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 科　目 | 単位数 | 指導学年 | 使用教科書・副教材等 |
| 古典探究 | ４単位 | ○○科○学年○学級 | 筑摩書房『古探716　古典探究（漢文編）』  準拠ノート『古典探究　課題ノート』  （「課題ノート」の扱いについては省略） |

１　学習の到達目標等

|  |  |
| --- | --- |
| 学習の到達目標 | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。  (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。  (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。  (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 |

２　評価の観点

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 評価の観点 | | |
| a ．知識・技能 | ｂ．思考力・判断力・表現力 | ｃ．主体的に学習に取り組む態度 |
| 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。 | 「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 | 言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わろうとしている。 |

３　学習計画及び評価方法等（古探716）

| 月 | 単元名 | 単元の目標 | 学習内容（教材） | 配当時間 | 学習活動 | 評価基準・評価方法 | 評価の方法 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| a 　（知識・技能）  ｂ　（思考力・判断力・表現力）A読むこと  ｃ　（主体的に学習に取り組む態度） |
| 第一部 | | | | | | | |
| 4 | 第１章　創成と典故――故事成語 | 新たな表現を支える典故の力を理解する | 知音 | 0.5 | ①登場人物のことばや行動を正確に読み取り、「知音」という故事成語についての理解を深める。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「知音」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「知音」の故事成語という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「知音」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「知音」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「知音」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「知音」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「知音」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「知音」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　故事成語という章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　故事成語という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「知音」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「知音」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「知音」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「知音」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「知音」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 4 | 第１章　創成と典故――故事成語 | 新たな表現を支える典故の力を理解する | 曳尾於塗中 | 0.5 | ①自分なりの生き方に対する荘子の主張と、その伝え方の表現技巧を理解する。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「曳尾於塗中」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「曳尾於塗中」の故事成語という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「曳尾於塗中」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「曳尾於塗中」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「曳尾於塗中」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「曳尾於塗中」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「曳尾於塗中」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「曳尾於塗中」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　故事成語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　故事成語という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「曳尾於塗中」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「曳尾於塗中」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「曳尾於塗中」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「曳尾於塗中」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「曳尾於塗中」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 4 | 第１章　創成と典故――故事成語 | 新たな表現を支える典故の力を理解する | 先従隗始 | 1 | ①「郭隗先生」による、求めるものを手に入れるための意外ともいえる方法を読み解き、中国古代のものの見方、感じ方や考え方を理解する。  ②故事成語を理解する。  ③本文に用いられた句法を理解する。  ④漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「先従隗始」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「先従隗始」の故事成語という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「先従隗始」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「先従隗始」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「先従隗始」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「先従隗始」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「先従隗始」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「先従隗始」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　故事成語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　故事成語という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「先従隗始」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「先従隗始」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「先従隗始」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「先従隗始」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「先従隗始」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 5 | 第２章　生き方の表明――文章（一） | 言語表現に託された生き方の表明を読み取る | 漁夫辞 | 1 | ①教材の時代背景を理解する。  ②屈原と漁夫の生き方の違いを把握する。  ③比喩表現を理解する。  ④本文に用いられた句法を理解する。  ⑤漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「漁夫辞」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「漁夫辞」の「辞」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「漁夫辞」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「漁夫辞」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「漁夫辞」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「漁夫辞」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  エ　「漁夫辞」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「辞」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「辞」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「漁夫辞」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「漁夫辞」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「漁夫辞」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「漁夫辞」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「漁夫辞」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 5 | 第２章　生き方の表明――文章（一） | 言語表現に託された生き方の表明を読み取る | 桃花源記 | 1 | ①本文を通して、作者が理想とする生き方について考える。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③実際の年号・地名・人名が用いられているが、それらがどのような効果を上げているか、話し合う。  ④漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「桃花源記」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「桃花源記」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「桃花源記」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「桃花源記」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「桃花源記」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「桃花源記」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  エ　「桃花源記」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「桃花源記」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「桃花源記」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「桃花源記」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「桃花源記」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「桃花源記」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「桃花源記」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「桃花源記」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 5 | 第２章　生き方の表明――文章（一） | 言語表現に託された生き方の表明を読み取る | 春夜宴桃李園序 | 1 | ① 夢のようにはかない人生に対する李白の処し方を読み解き、表現上の工夫を把握する。  ②比喩表現を理解する。  ③本文に用いられた句法を理解する。  ④漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「春夜宴桃李園序」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「春夜宴桃李園序」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「春夜宴桃李園序」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「春夜宴桃李園序」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「春夜宴桃李園序」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「春夜宴桃李園序」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  エ　「春夜宴桃李園序」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「春夜宴桃李園序」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「春夜宴桃李園序」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「春夜宴桃李園序」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「春夜宴桃李園序」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「春夜宴桃李園序」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「春夜宴桃李園序」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「春夜宴桃李園序」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 6  ・  7 | 第３章　韻文の表現――近体詩 | 景情一致の技法を理解する | 独坐敬亭山  登楽遊原  九月九日憶山東兄弟  芙蓉楼送辛漸  楓橋夜泊 | 1 | ①起承転結という形式を用いて、詩人がどのように心情を表現しているのか、考える。  ②漢詩の種類・韻字・対句をまとめる。  ③最も印象的な詩を一首選び、現代語に訳す。また、その訳について、数人のグループでお互い批評し合う。  ④漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　五言絶句の近体詩に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 五言絶句の近体詩の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　五言絶句の近体詩における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 五言絶句の近体詩に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　五言絶句の近体詩を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　五言絶句の近体詩を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  エ　五言絶句の近体詩の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　五言絶句の近体詩という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　五言絶句の近体詩という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　五言絶句の近体詩の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　五言絶句の近体詩の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　五言絶句の近体詩について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　五言絶句の近体詩に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　五言絶句の近体詩の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 6  ・  7 | 第３章　韻文の表現――近体詩 | 景情一致の技法を理解する | 野望  旅夜書懐  八月十五夜、禁中独直、対月憶元九  遊山西村 | 1 | ①対句の詠じ方に注意を払いつつ、それぞれの詩の主題を理解する。  ②漢詩の種類・韻字・対句をまとめる。  ③最も印象的な詩を一首選び、現代語に訳す。また、その訳について、数人のグループでお互い批評し合う。  ④漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　五言律詩の近体詩に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 五言律詩の近体詩の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　五言律詩の近体詩における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 五言律詩の近体詩に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　五言律詩の近体詩を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　五言律詩の近体詩を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  エ　五言律詩の近体詩の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　五言律詩の近体詩という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　五言律詩の近体詩という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　五言律詩の近体詩の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　五言律詩の近体詩の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　五言律詩の近体詩について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　五言律詩の近体詩に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　五言律詩の近体詩の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 6  ・  7 | 第３章　韻文の表現――近体詩 | 景情一致の技法を理解する | 聞旅雁  即事  無題 | 1 | ①それぞれの詩に表出されている心情について、読み取る。  ②漢詩の種類・韻字・対句をまとめる。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　日本の漢詩に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 日本の漢詩の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　日本の漢詩における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 日本の漢詩に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　日本の漢詩を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　日本の漢詩を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  エ　日本の漢詩の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　日本の漢詩という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　日本の漢詩という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　日本の漢詩の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　日本の漢詩の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　日本の漢詩について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　日本の漢詩に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　日本の漢詩の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 9 | 第４章　言動の記録――史伝 | 言動の記録をたどり、人物像を捉える | ●史記  天道是邪、非邪  鴻門之会  四面楚歌 | 6 | ①登場人物の性格や心情・人間関係などを整理しながら話の展開をおさえ、歴史記述の特徴を把握する。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「史記」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「史記」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「史記」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「史記」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「史記」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「史記」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「史記」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「史記」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「史記」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「史記」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「史記」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「史記」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「史記」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「史記」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「史記」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「史記」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 9 | 第４章　言動の記録――史伝 | 言動の記録をたどり、人物像を捉える | ●近古史談  稲葉一徹 | 1 | ①登場人物の各人物像をまとめ、当時の武将の特色について把握する。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「稲葉一徹」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「稲葉一徹」の日本漢文という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「稲葉一徹」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「稲葉一徹」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「稲葉一徹」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「稲葉一徹」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「稲葉一徹」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「稲葉一徹」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　日本漢文という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　日本漢文という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「稲葉一徹」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「稲葉一徹」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「稲葉一徹」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「稲葉一徹」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「稲葉一徹」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「稲葉一徹」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 10 | 第５章　物語の創造――小説 | 作品を正確に読み取り、その構成を分析し、表現効果を理解する | 鶴之報恩  売鬼 | 2 | ①物語の妙味や、登場人物の機知を読み取る。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「鶴之報恩」「売鬼」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「鶴之報恩」「売鬼」の説話という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「鶴之報恩」「売鬼」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「鶴之報恩」「売鬼」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「鶴之報恩」「売鬼」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「鶴之報恩」「売鬼」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「鶴之報恩」「売鬼」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「鶴之報恩」「売鬼」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　説話という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　説話という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「鶴之報恩」「売鬼」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「鶴之報恩」「売鬼」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「鶴之報恩」「売鬼」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「鶴之報恩」「売鬼」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「鶴之報恩」「売鬼」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「鶴之報恩」「売鬼」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 10 | 第５章　物語の創造――小説 | 作品を正確に読み取り、その構成を分析し、表現効果を理解する | 王昭君 | 1 | ①一つの物語が、どのように受け継がれ、新たな作品が創られるきっかけとなるのかについて考える。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「王昭君」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「王昭君」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「王昭君」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「王昭君」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「王昭君」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「王昭君」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「王昭君」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「王昭君」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「王昭君」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「王昭君」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「王昭君」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「王昭君」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「王昭君」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「王昭君」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「王昭君」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「王昭君」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 10 | 第５章　物語の創造――小説 | 作品を正確に読み取り、その構成を分析し、表現効果を理解する | 実践　同じテーマの作品を比較し、それぞれの特徴を理解しよう | 1 | ①「王昭君」（『西京雑記』）と李白「王昭君」、大江朝綱「王昭君」、赤染衛門「王昭君をよめる」を読み比べる。  ②➀でまとめた点を踏まえ、それぞれの作品の特徴について、ノートにまとめる。  ②グループに分かれ、各自がまとめた点を比べて、共感する点や意見が異なるを話し合う。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「王昭君」の読み比べを通して、用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「王昭君」の読み比べを通して、それぞれの文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「王昭君」の読み比べを通して、文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「王昭君」の読み比べを通して、それぞれの作品に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「王昭君」の読み比べを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「王昭君」の読み比べを通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「王昭君」の読み比べを通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「王昭君」の読み比べを通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「王昭君」の読み比べを通して、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「王昭君」の読み比べを通して、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「王昭君」の読み比べを通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「王昭君」の読み比べを通して、それぞれの作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「王昭君」の読み比べを通して、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「王昭君」の読み比べを通して、それぞれの作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「王昭君」の読み比べを通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「王昭君」の読み比べを通して、それぞれの作品を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表 |
| 11  ・  12 | 第６章　説得の技法――文章（二） | 典故や比喩に託された主張を読み取る | 師説 | 2 | ①文章の主旨と表現の工夫とを段落ごとに確認する。  ②比喩や故事の引用がもつ表現効果について考える。  ③本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「師説」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「師説」の「説」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「師説」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「師説」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「師説」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「師説」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  エ　「師説」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「説」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「説」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「師説」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「師説」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「師説」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「師説」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「師説」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 11  ・  12 | 第６章　説得の技法――文章（二） | 典故や比喩に託された主張を読み取る | 捕蛇者説 | 2 | ①比喩や故事の引用が持つ表現効果をふまえて、筆者の主張の核心を理解する。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「捕蛇者説」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「捕蛇者説」の「説」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「捕蛇者説」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「捕蛇者説」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「捕蛇者説」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「捕蛇者説」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  エ　「捕蛇者説」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「説」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「説」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「捕蛇者説」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「捕蛇者説」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「捕蛇者説」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「捕蛇者説」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「捕蛇者説」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 11  ・  12 | 第６章　説得の技法――文章（二） | 典故や比喩に託された主張を読み取る | 愛蓮説 | 1 | ①それぞれの花に仮託された生き方の典型を理解する。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「愛蓮説」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「愛蓮説」の「説」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「愛蓮説」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「愛蓮説」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「愛蓮説」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「愛蓮説」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  エ　「愛蓮説」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「説」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「説」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「愛蓮説」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「愛蓮説」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「愛蓮説」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「愛蓮説」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「愛蓮説」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 1  ・  2 | 第７章　読み継がれる思想――儒家 | 普遍的な人間性を語る論法に触れ、自らの考えを広げる | 論語　それぞれの生き方 | 2 | ①登場人物の社会観や人生観を読み取り、それぞれの生き方を理解する。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「論語」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「論語」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「論語」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「論語」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「論語」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「論語」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「論語」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「論語」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「論語」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「論語」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「論語」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「論語」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「論語」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「論語」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「論語」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 1  ・  2 | 第７章　読み継がれる思想――儒家 | 普遍的な人間性を語る論法に触れ、自らの考えを広げる | ●孟子  人無有不  四端 | 4 | ①孟子の人間観を読み取る。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「孟子」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「孟子」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「孟子」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「孟子」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「孟子」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「孟子」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「孟子」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「孟子」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「孟子」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「孟子」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「孟子」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「孟子」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「孟子」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「孟子」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「孟子」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 1  ・  2 | 第７章　読み継がれる思想――儒家 | 普遍的な人間性を語る論法に触れ、自らの考えを広げる | ●荀子  性悪 | 21 | ①荀子の人間観を読み取る。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「荀子」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「荀子」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「荀子」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「荀子」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「荀子」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「荀子」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「荀子」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「荀子」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「荀子」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「荀子」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「荀子」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「荀子」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「荀子」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「荀子」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「荀子」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 第二部 | | | | | | | |
| 4 | 第１章　評価する視点――故事成語 | 多面的・多角的な視点を養う | 断腸 | 1 | ①「桓公」が怒った理由について考える。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「断腸」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「断腸」の故事成語という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「断腸」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「断腸」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「断腸」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「断腸」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「断腸」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「断腸」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　故事成語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　故事成語という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「断腸」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「断腸」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「断腸」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「断腸」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「断腸」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「断腸」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 4 | 第１章　評価する視点――故事成語 | 多面的・多角的な視点を養う | 螳螂之斧 | 1 | ①二つの文章で、一つの行動に対する評価が大きく異なる理由を考える。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「蟷螂之斧」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「蟷螂之斧」の故事成語という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「蟷螂之斧」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「蟷螂之斧」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「蟷螂之斧」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「蟷螂之斧」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「蟷螂之斧」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「蟷螂之斧」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　故事成語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　故事成語という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「蟷螂之斧」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「蟷螂之斧」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「蟷螂之斧」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「蟷螂之斧」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「蟷螂之斧」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「蟷螂之斧」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 4 | 第１章　評価する視点――故事成語 | 多面的・多角的な視点を養う | 愚公移山 | 1 | ①登場人物それぞれの価値観を比較しながら考える。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「愚公移山」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「愚公移山」の故事成語という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「愚公移山」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「愚公移山」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「愚公移山」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「愚公移山」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「愚公移山」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「愚公移山」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　故事成語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　故事成語という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「愚公移山」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「愚公移山」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「愚公移山」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「愚公移山」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「愚公移山」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「愚公移山」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 5 | 第２章　主張と文体――文章（一） | 文章の種類を踏まえて、構成や展開の違いを理解する | 詩経大序 | 1 | ①詩集の序文であることを踏まえ、文中で展開される文学論を理解する。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「詩経大序」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「詩経大序」の「序」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「詩経大序」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「詩経大序」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「詩経大序」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「詩経大序」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「詩経大序」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「詩経大序」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「序」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「序」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「詩経大序」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「詩経大序」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「詩経大序」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「詩経大序」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「詩経大序」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「詩経大序」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 5 | 第２章　主張と文体――文章（一） | 文章の種類を踏まえて、構成や展開の違いを理解する | 実践　文学論を比較し、共通点や相違点を論述しよう | 1 | ①「古今和歌集真名序」を「詩経大序」と比較して、共通する内容や表現をノートに書き出す・。  ②「「古今和歌集仮名序」を「詩経大序」と比較して、共通する内容や表現をノートに書き出す。  ③それぞれの「序」が説明する詩や和歌の特色を、詩や和歌の本質と役割という観点からまとめる。  ④グループに分かれ、各自がまとめた点を話し合う。  ⑤「詩経大序」と「古今和歌集真名序」「仮名序」の文学論にはどのような特徴がみられるか、自分の考えを８００字程度で論述する。 | A　(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「詩経大序」と「古今集真名序」を読み比べることを通して、用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「詩経大序」と「古今集真名序」を読み比べることを通して、「序」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「詩経大序」と「古今集真名序」を読み比べることを通して文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「詩経大序」と「古今集真名序」を読み比べることを通して、それぞれの「序」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「詩経大序」と「古今集真名序」を読み比べることを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「詩経大序」と「古今集真名序」を読み比べることを通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「詩経大序」と「古今集真名序」を読み比べることを通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「詩経大序」と「古今集真名序」を読み比べることを通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ　Ａ 読むこと  ア　「詩経大序」と「古今集真名序」を読み比べることを通して、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「詩経大序」と「古今集真名序」を読み比べることを通して、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「詩経大序」と「古今集真名序」を読み比べることを通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「詩経大序」と「古今集真名序」を読み比べることを通して、それぞれの「序」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「詩経大序」と「古今集真名序」を読み比べることを通して、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「詩経大序」と「古今集真名序」を読み比べることを通してそれぞれの「序」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「詩経大序」と「古今集真名序」を読み比べることを通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「詩経大序」と「古今集真名序」を読み比べることを通して、多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表 |
| 5 | 第２章　主張と文体――文章（一） | 文章の種類を踏まえて、構成や展開の違いを理解する | 論文 | 1 | ①「文」の種類と「文章」の価値とについて、その概要を理解する。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「論文」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「論文」を通して、文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「論文」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「論文」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「論文」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「論文」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「論文」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「論文」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「論文」を通して、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「論文」を通して、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「論文」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「論文」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「論文」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「論文」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「論文」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「論文」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 5 | 第２章　主張と文体――文章（一） | 文章の種類を踏まえて、構成や展開の違いを理解する | 五柳先生伝 | 1 | ①作者が史伝の形式を用いて描いた架空の主人公に託した理想的な生き方を読み取る。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「五柳先生伝」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「五柳先生伝」の「伝」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「五柳先生伝」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「五柳先生伝」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「五柳先生伝」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「五柳先生伝」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「五柳先生伝」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「五柳先生伝」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「伝」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「伝」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「五柳先生伝」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「五柳先生伝」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「五柳先生伝」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「五柳先生伝」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「五柳先生伝」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「五柳先生伝」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 5 | 第２章　主張と文体――文章（一） | 文章の種類を踏まえて、構成や展開の違いを理解する | 前赤壁賦 | 2 | ①対句と脚韻を用いる「賦」の文体による壮大な叙情表現を味わう。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「前赤壁賦」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「前赤壁賦」の「賦」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「前赤壁賦」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「前赤壁賦」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「前赤壁賦」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「前赤壁賦」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「前赤壁賦」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「前赤壁賦」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「賦」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「賦」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「前赤壁賦」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「前赤壁賦」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「前赤壁賦」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「前赤壁賦」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「前赤壁賦」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「前赤壁賦」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 6 | 第３章　韻文の伝統――古体詩 | 作者の意図を踏まえて、作品を朗読する | ●古体詩  桃夭  春風辞  薤露  飲酒　其五  送別  漁翁  石壕吏 | 3 | ①古体詩に盛り込まれる主題の多様性を理解する。  ②それぞれの漢詩を声に出して読み、音声として味わう。  ③漢詩の表現に即して内容を味わい、作者の心情を理解する。  ④漢詩の種類・修辞や、その役割について理解する。  ⑤さまざまな詩人についての理解を深める。  ⑥さまざまな句法について理解する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　古体詩に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 古体詩という詩の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　古体詩における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 古体詩に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　古体詩を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　古体詩を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  エ　古体詩の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　古体詩という詩の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　古体詩という詩の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　古体詩の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　古体詩の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　古体詩について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　古体詩に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　古体詩の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 7 | 第３章　韻文の伝統――古体詩 | 作者の意図を踏まえて、作品を朗読する | 長恨歌 | 2 | ①作品全体の構成について整理する。  ②細部の描写に着目し、作品の世界を味わう。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「長恨歌」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「長恨歌」の長律という詩の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「長恨歌」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「長恨歌」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「長恨歌」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「長恨歌」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  エ　「長恨歌」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　長律という詩の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　長律という詩の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「長恨歌」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「長恨歌」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「長恨歌」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「長恨歌」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「長恨歌」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 9 | 第４章　言動の真意――史伝 | 背景や状況を踏まえ、登場人物の言動の真意を理解する | ●史記  怒髪上衝冠  刎頸之交  国士無双 | 5 | ①登場人物の言動をまとめ、司馬遷がどのように当時の武将を描いているか、把握する。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「史記」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「史記」の史伝という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「史記」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「史記」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「史記」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「史記」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「史記」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「史記」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　史伝という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　史伝という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「史記」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「史記」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「史記」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「史記」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「史記」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「史記」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 9 | 第４章　言動の真意――史伝 | 背景や状況を踏まえ、登場人物の言動の真意を理解する | ●日本外史  信玄何在 | 1 | ①漢文体で書かれた日本の歴史書を読み解く。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「信玄何在」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「信玄何在」の日本漢文という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「信玄何在」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「信玄何在」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「信玄何在」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「信玄何在」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「信玄何在」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「信玄何在」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　日本漢文という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　日本漢文という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「信玄何在」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「信玄何在」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「信玄何在」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「信玄何在」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「信玄何在」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「信玄何在」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 10 | 第５章　物語の展開――小説 | 物語の展開を学び、作品の理解を深める | 離魂記 | 2 | ①言語によって構築された仮想の世界にリアリティを与える構成の工夫を確かめながら、作品を読む。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「離魂記」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「離魂記」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「離魂記」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「離魂記」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「離魂記」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「離魂記」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「離魂記」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「離魂記」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「離魂記」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「離魂記」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「離魂記」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「離魂記」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「離魂記」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「離魂記」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「離魂記」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 10 | 第５章　物語の展開――小説 | 物語の展開を学び、作品の理解を深める | 人面桃花 | 2 | ①物語における詩の役割を理解する。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「人面桃花」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「人面桃花」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「人面桃花」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「人面桃花」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「人面桃花」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「人面桃花」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「人面桃花」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「人面桃花」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「人面桃花」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「人面桃花」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「人面桃花」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「人面桃花」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「人面桃花」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「人面桃花」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「人面桃花」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 11 | 第６章　心情の表出――文章（二） | 作品が成立した背景を踏まえて解釈を深める | 前出師表 | 1 | ①筆者の主張をまとめ、この文章の特色を考える。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「前出師表」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「前出師表」の「表」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「前出師表」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「前出師表」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「前出師表」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「前出師表」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  エ　「前出師表」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「表」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「表」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「前出師表」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「前出師表」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「前出師表」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「前出師表」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「前出師表」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 11 | 第６章　心情の表出――文章（二） | 作品が成立した背景を踏まえて解釈を深める | 与微之書 | 2 | ①「書」（手紙）の内容を整理する。  ②筆者が「書」に込めた思いを理解する。  ③本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「与微之書」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「与微之書」の「書」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「与微之書」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「与微之書」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「与微之書」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「与微之書」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  エ　「与微之書」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「書」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「書」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「与微之書」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「与微之書」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「与微之書」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「与微之書」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「与微之書」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 11 | 第６章　心情の表出――文章（二） | 作品が成立した背景を踏まえて解釈を深める | 傷仲永 | 1 | ①筆者の考えをまとめ、その論理展開の特色を把握する。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「傷仲永」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「傷仲永」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「傷仲永」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「傷仲永」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「傷仲永」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「傷仲永」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  エ　「傷仲永」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「傷仲永」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「傷仲永」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「傷仲永」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「傷仲永」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「傷仲永」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「傷仲永」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「傷仲永」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 12 | 第７章　思想の展開――諸子 | 普遍的な価値についての考えを深める | ●老子  無之用  柔之勝剛 | 1 | ①反復・対偶、そして逆説的な表現を駆使して心理に肉薄する言説の力強さを味わう。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「老子」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「老子」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「老子」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「老子」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「老子」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「老子」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「老子」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「老子」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「老子」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「老子」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「老子」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「老子」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「老子」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「老子」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「老子」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「老子」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 12 | 第７章　思想の展開――諸子 | 普遍的な価値についての考えを深める | ●荘子  渾沌  無用之用 | 1 | ①寓言と巧みな比喩表現が生み出す思想性と文芸性との融合を味わう。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「荘子」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「荘子」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「荘子」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「荘子」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「荘子」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「荘子」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「荘子」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「荘子」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「荘子」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「荘子」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「荘子」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「荘子」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「荘子」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「荘子」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「荘子」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「荘子」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 12 | 第７章　思想の展開――諸子 | 普遍的な価値についての考えを深める | ●韓非子  守業  嬰逆鱗 | 1 | ①非情とも思える主張の正当性を、故事を例に用いて証明する言説の鋭さを味わう。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「韓非子」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「韓非子」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「韓非子」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「韓非子」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「韓非子」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「韓非子」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「韓非子」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「韓非子」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「韓非子」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「韓非子」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「韓非子」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「韓非子」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「韓非子」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「韓非子」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「韓非子」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「韓非子」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 12 | 第７章　思想の展開――諸子 | 普遍的な価値についての考えを深める | ●墨子  兼愛 | 1 | ①丁寧な説明を一つ一つ積み上げ、反論の余地を相手に与えない重厚な論の展開を味わう。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「墨子」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「墨子」という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「墨子」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「墨子」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「墨子」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「墨子」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「墨子」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「墨子」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「墨子」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「墨子」という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「墨子」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「墨子」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「墨子」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「墨子」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「墨子」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「墨子」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 1 | 第７章　思想の展開――諸子 | 普遍的な価値についての考えを深める | 言と黙  （興膳宏） | 1 | ①道家の書に示されている「ことば」の本質を理解する。  ②本文に用いられた句法を理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「言と黙」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「言と黙」の漢文に関する現代評論という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「言と黙」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「言と黙」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「言と黙」を読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「言と黙」を通して、古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「言と黙」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「言と黙」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　現代評論という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　現代評論という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「言と黙」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「言と黙」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「言と黙」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「言と黙」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「言と黙」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「言と黙」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |